下市町教育委員会だより

教育委員会から町民の皆様への情報通信

令和7年8月1日　第61号
奈良県下市町教育委員会
教育長　上東　祥浩　発行

中国の子どもたちと国際交流　～あきつ学園～

▼7月11日（金）、中国の創新実験小学校(中国陝西省延安市)から27名の児童と教職員・スタッフ12名の皆様が、あきつ学園を訪問されました。学校交流を通じて新しい価値観と出会い、国際社会への理解を深めてもらうための交流は、今年で2回目となります。▼まず体育館で歓迎セレモニーを行った後、小グループに分かれて、1年生から9年生までの各学級で『昔遊び』を行いました。また、給食もいっしょに食べて、楽しいひとときを過ごしました。▼下市町の目指す子ども像に、『国際社会に目を向けながらも、これからの「下市」を築いていく子ども」を掲げています。子どもたちが、異なる文化を持つ人々との交流を通じて、互いの文化や価値観を尊重し、理解を深めること。外国語を使ってコミュニケーションする機会を持つこと。さらに語学力だけでなく、非言語コミュニケーション能力を身につけることも大切です。

ビオトープ完成式　～あきつ学園～

▼ビオトープとは、「生きものが暮らす場所」という意味です。自然環境だけでなく、人が作り出した環境も含まれ、生物多様性の保全や自然とのふれあいを目的としています。▼6月23日に、完成式を行い、ビオトープ作りにお世話になった8名の学校支援ボランティアさんに感謝の気持ちを伝えました。

第３回下市生活学校～防災講習～

▼7月10日（木）、第3回下市生活学校を開催し、防災士である松田哲子様をお招きしました。▼今後予想される南海トラフ地震等を踏まえ、下市町の災害マップを見ながら、災害に対する心構え、備え、対応策について、グループ内で自分事として考えることができ、たいへん実りのある良い機会となりました。

親子でボッチャを楽しむ会　～こども園～

▼7月14日（月）、子ども園で「親子でボッチャを楽しむ会」を開催し、3歳児～5歳児の20名と保護者の皆さんのご参加のもと、ボッチャ競技に挑戦しました。▼ボッチャは、子どもから高齢者まで気軽に楽しめる軽スポーツです。ねらいを定めて、格好良くボールを投げることができました。

わくわく保育『やすらぎ村』　～こども園～

▼7月26日（土）、ぞう組（5歳児）さんは、やすらぎ村にて、お友達とともに楽しく体験活動を行いました。やすらぎ村は、丹生川の清流と森の中から聞こえてくる小鳥のさえずりに、心が癒やされる自然豊かなところです。▼川遊びでは、水中めがねとライフジャケットを身につけ、お友達と大はしゃぎで楽しい時間を満喫しました。

第７６回奈良県民スポーツ大会　ゲートボールの部　初優勝

本年度、7月5日（土）に開催された第76回奈良県民スポーツ大会において、吉野郡代表として出場された下市町のチームが、市郡対抗で激戦を制し、見事優勝の栄冠に輝きました。おめでとうございました。

チームのメンバーの皆さんは以下のとおりです。

東　全弘、桑原伸治、向井弘之、東　良子、大月輝美　【敬称略】

『自ら学ぶ』　放課後子ども教室「あきつラボ」

「起立！礼！」「よろしくお願いします。」

子どもたちと勉強の博士の元気な声が教室に響き、次第に鉛筆の擦れる音が聞こえ始めると、子どもたちは、真剣な表情で学習に打ち込みます。学習時間が終わると、子どもたちから「楽しかった！」「時間が短く感じた！」等、名残惜しそうな声があちこちから聞こえました。

放課後子ども教室「あきつラボ」は、勉強の博士（学びのサポーター）による、子どもたちが自ら学ぶ姿勢を応援する取組で、放課後、あきつ学園の教室で行っています。7月は2回実施し、1年生から6年生まで延べ40名が参加して、子どもたちが自分で目標を立てて、学習に取り組みました。夏休み期間中は、「あきつラボ」はお休みですが、9月から活動を再開します。今後も定期的に活動の様子をお伝えしていきますので、引き続き本活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

戦後８０年を迎えて

「おばあちゃんの歌」
豊見城市伊良波小学校6年　城間　一歩輝
【前半省略】

おばあちゃんに
生きていてくれて本当にありがとうと伝えると
両手でぼくのほっぺをさわって
「生き延びたくとぅ　ぬちぬ　ちるがたん」
生き延びたから　命がつながったんだね
とおばあちゃんが言った

八十年前の戦争で
おばあちゃんは心と体に大きな傷を負った
その傷は何十年経っても消えない

人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように
おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく
おばあちゃんが繋いでくれた命を大切にして
一生懸命に生きていく

1941年12月の真珠湾攻撃をきっかけに日本は太平洋戦争に突入し、多くの命が失われました。2025年、今年は、終戦から80年の節目の年を迎えます。しかし、今もなおウクライナや中東などの国際情勢は混迷を極めています。今こそ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを改めて考えなくてはなりません。左の詩は、今年の6月21日（慰霊の日）、沖縄全戦没者追悼式で『児童生徒の平和メッセージ』で、豊見城市伊良波小学校6年　城間　一歩輝　さんが朗読した、平和の詩『おばあちゃんの歌』の一部です。以前、沖縄を訪れたとき、現地のおばあさんから、『ぬちどぉたから』という言葉を教わりました。『命こそ宝』という意味です。私たちはもう一度、この言葉をしっかり噛みしめなければなりません。

▼7月からたいへん暑い日が続いています。また、この時期は1年で最も気温が高く、熱中症予防対策を怠ってはなりません。しかし、『立秋（8月7日頃）』が暑さの頂点とされ、暦の上では、早くも秋の始まりです。▼朝夕には、少しばかり涼やかな風も吹き始めてほしいものです。

ご意見・お問い合わせは…
下市町教育委員会事務局
☎ 0747-52-1711
FAX 0747−52−5159
✉ kyoi@town.shimoichi.nara.jp